

二十歳の誓い

私は18歳の4月に上京し、京都を離れて憧れの東京で人生を歩み始めました。

高校の頃から、自分が一番興味があるものは何なのかが分からず、「自分の可能性を試したい」という思いから、学部のない東京の大学への進学を決意しました。しかし、慣れない土地で初めて一人になると、東京は知らない人とのつながりが薄く、孤独で不安で、気がついたら母に電話していました。「京都に帰りたい！」と胸がいっぱいになる事が度々ありました。

そんな私が京都に帰って来た時に気づいたのですが、上京する前は苦手だった商店街のおばちゃんが気軽に喋りかけてくことや、道に迷っていたり困っていたらすぐに声をかけてくれるという京都の「人のやさしさ」です。「大切なものは、離れて初めて気づくもの」京都のことも親のありがたみも、京都を離れたからこそ感じる事が出来たのだと思っています。

母が私に言ってくれた、「やりたい事は無理やり作るものじゃない。利帆がやりたい事は何でも応援するから。」という言葉で「焦って将来の道筋を決定しなくてもいいんや」とすっと心が軽くなり、「まず東京に馴染まないと」と、自分から積極的に人に関わって行くために様々なことにチャレンジしてきました。

そんな時に出会ったのがサークルの先輩です。自分の経験をもとにアドバイスしてくれる先輩の言葉によって、もやがかかってぼんやりしていた私の将来の道が少しずつ鮮明に浮かび上がってきたのです。対話力がある人と話すと、自分の中から色々なものの考え方が引きだされるし、自分の持つ言葉が行動に影響するのだと感じました。

ようやく3回生から大学で専門の分野を選択します。私は「人の行動の真髓について」勉強したいです。京都の人と東京の人、日本人と他国の人など、異なる人々の環境や習慣、性格の傾向の背景には、どのような歴史や文化が関係しているのかを探りたいです。その為に、これからも沢山の人と関わりながら、目の前の事に一生懸命取り組んでいきたいと思えます。

最後に、毎日夜遅くまで働き、精神的にも金銭的にも私を支えてくれた母に心から感謝し、胸を張って恩返しができるような、立派な大人になることを「二十歳の誓い」とさせていただきます。

今日は私たちのために、このような盛大な記念式典を開催頂きましてありがとうございます。

心から御礼を申し上げます。

平成31年1月14日 新成人代表 片岡 利帆